



EARTH & FOREST

土木学会 地球環境委員会

***** 目 次 *****

卷頭言	地球環境委員会 委員長	太田 幸雄	P.1
土木学会 2010 年度全国大会研究討論会のご案内	地球環境委員会 幹事長	村尾 直人	P.3
第 18 回地球環境シンポジウムに向けて			
第 18 回地球環境シンポジウム 実行委員会 委員長	奈良 松範	P.5	
第 18 回地球環境シンポジウムのご案内（会場・交通・宿泊） 実行委員会 幹事長	大西 文秀	P.8	
第 18 回地球環境シンポジウム 実行委員会の構成および協賛・後援組織		P.12	
第 17 回地球環境シンポジウムの記録写真		P.13	
地球環境委員会 平成 22 年度 委員会・幹事会の構成		P.15	
地球環境委員会からのおしらせ		P.16	

卷頭言

地球環境委員会 委員長 太田 幸雄(北海道大学)

地球環境委員会は、土木学会の各部門が地球環境問題に対して総合的かつ横断的に取り組むことを目的として設置された委員会です。1992 年 10 月に東京の星陵会館において「地球時代の土木」と題して設立シンポジウムを開催しました。このシンポジウムには 300 人以上の皆様が参加され、熱気にあふれた講演と討論が行われて、土木界の地球環境問題解決に向けた熱い意気込みが示されました。この発足以来 18 年が経緯しましたが、現在、地球環境問題はますます深刻となりつつあります。しかしながら、この地球環境問題に対する対策は、未だ初期的な取り組みしかなされていないのが現状です。このような状況から、地球環境委員会の果たすべき役割は、ますます広くまた緊急性の高いものになって来ています。



地球環境委員会全体として、毎年取り組んできた大きな活動がこの地球環境シンポジウムの開催です。第 18 回を迎えた本シンポジウムでは、諏訪東京理科大学教授の奈良松範先生を実行委員長にお願いし、先生のご尽力で諏訪東京理科大学を会場として開催させていただくことになりました。実行委員長をはじめ、開催にご尽力頂いた皆様に厚く感謝申し上げる次第です。

今回のシンポジウムにおいては、査読付論文 19 題と講演論文 29 題の発表、および 5 題以上のパネル展示を実施いたします。さらに企画セッションとして、テーマ I 「行政の側から見た環境負荷低減方策とその行方」と題して国土交通省、長野県および茅野市の皆様からのご講演、およ

びテーマⅡ「グリーン購入、エコマテリアルの課題と展望」と題して環境省、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク、日本環境協会および物質・材料研究機構の皆様よりご講演をいただき、討論を行います。

また、市民の皆様にも参加していただくことを期待して、聴講料無料の「地球環境フォーラム」を開催します。このフォーラムにおける「一般公開セッション」では「自然を活用した地域経済の活性化」について、茅野商工会議所の白川 元 専務理事に座長をお願いし、長野県や茅野市でご活躍の皆様のご講演と討論を計画しました。次に、自然に恵まれた長野県における大会に相応しい取り組みとして、「自然と環境」をテーマにした「公開シンポジウム」を開催します。この公開シンポジウムにおいては、諏訪東京理科大学学長の河村 洋 先生に「ひと、エネルギー、環境」、元諏訪東京理科大学学長の重倉祐光先生に「セメントよりもやま話」という課題での基調講演をお願いしています。その後、地球環境委員会の大西文秀氏に「GIS で観る信州のヒトと自然」についての話題提供、および長野県の GIS 担当の方に話題提供をしていただいた後、パネルディスカッションを予定しています。以上のようにこのたびの「地球環境フォーラム」では、信州の自然を活用した地域経済の活性化、信州のヒトと自然、および経済と環境に関する話題を取り上げました。

なお、一般公開セッション、一般公開シンポジウムにつきましては、これまで地球環境シンポジウムの一部として行ってまいりましたが、CPD（継続教育）プログラムとして多くの皆様に参加・ご活用いただくことを目的として、今回から委員会主催の行事として、地球環境シンポジウムと切り離して開催することと致しました。

また、今回のシンポジウムにおいて展示された優秀な展示・技術紹介に対して地球環境技術賞、優秀な展示に対して地球環境貢献賞、さらに JGEE 掲載論文またはノートおよび地球環境研究論文集登載論文の中から優れた論文に対して地球環境論文賞、地球環境シンポジウムにおける優れた講演に対して地球環境優秀講演賞が贈られます。このような表彰企画もありますので、多くの皆様が参加され、活発な討論により、実り多いシンポジウムとなりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

土木学会 2010 年度全国大会研究討論会のご案内

地球環境委員会 幹事長 村尾 直人(北海道大学)

地球温暖化問題については、理解や知識の共有、議論の時は終わり、具体的な行動を行う時を迎えていくようです。温暖化対策に向けてどのように社会を、そして世界を動かしてゆくのか。そのようななかで、土木学会、そして本委員会が担うべき役割はますます大きくなつて行くことでしょう。

ご存じの通り、地球環境委員会は、2007 年～08 年に時限付き特別委員会として設置された地球温暖化対策特別委員会の運営主体として活動してまいりました。土木学会全国大会においては、平成 20 年度(2008 年) 9 月に仙台で開催された大会で、研究討論会「土木界からの地球温暖化対策への貢献」を開催し、100 名以上の参加者を得ました。学会員の関心の高さを実感したところです。

さらに最終報告書（平成 21 年 5 月発行）の発行を受け、本委員会では、報告書に関連した研究討論会を企画することとし、まず平成 21 年度(2009 年) に福岡で開催された大会において、適応策に関する研究討論会「地球温暖化対策－土木学会はいかに行動すべきか－」を開催しました。

そして、本年、札幌で開催される大会では、引き続き同タイトルの下で、適応策に関する研究討論会を開催致しますとともに、環境システム委員会との共催で、「社会資本のライフ・サイクル・アセスメント」研究についての研究討論会を開催致します。この研究討論会は前年度の適応策に関する内容に続くものになっています。

それぞれの研究討論会の内容は下記のとおりです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

■土木学会 2010 年度全国大会 討論会

「地球温暖化対策－土木学会はいかに行動すべきか－」

担当： 地球環境委員会

日時： 9 月 3 日、12 時 40 分～14 時 40 分

主旨： 近年、地球温暖化が現実の問題として認識されつつある。土木学会においてもこの温暖化にどのように対処すべきかを検討するために 2007～2009 年度に「土木学会地球温暖化対策特別委員会」が組織された。この特別委員会においては、温暖化の影響解明のための小委員会、温暖化の緩和策小委員会、および温暖化の適応策小委員会の 3 つの小委員会が作られ、それぞれ検討がなされた。

本研究討論会では、このうち温暖化の適応策小委員会において議論された内容を中心として、土木学会がなすべき地球温暖化の適応策について、以下の 4 人の演者に講演していただき、その後、質疑・議論する。

内容：

- (1) 温暖化適応策小委員会における検討内容の概要説明 山田 正 (中央大学理工学部)
- (2) 温暖化適応策への水工学からの寄与 井上智夫 ((財) リバーフロント整備センター)



(3) 温暖化適応策への海岸工学からの寄与

横木 裕宗 (茨城大学工学部)

(4) 温暖化適応策への環境工学からの寄与

佐藤 弘泰 (東京大学大学院新領域創成科学研究所)

■土木学会 2010 年度全国大会 討論会

「社会資本のライフ・サイクル・アセスメント」(仮題)

担当 ; 環境システム委員会、地球環境委員会

日時 : 9月1日 16:15-18:15

主旨 : 社会資本整備においても、色々な段階で様々な関係者が関係して、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる。しかし、それらは段階毎の削減に止まっており、社会資本整備の全体を考えた評価にはなっていないのが現状である。環境分野の取り組みは時として、ある分野で取り組んだ結果、別の分野にひずみをもたらし全体で見ると改善されていないことがある。社会資本整備においても、施工時だけでなく使用する資材も含めた温室効果ガス削減対策が必要である。そのために、ライフ・サイクル・アセスメントを社会資本整備へ導入することが重要な課題となる。

土木学会と国土技術政策総合研究所で進めている「社会資本のライフ・サイクル・アセスメント」研究についてその内容を紹介するとともに、今後の展開、利用について広くご意見をいただくことをねらいとして研究討論会を開催する。

内容

話題提供① 社会基盤が担うべき低炭素社会での役割と課題 (仮)

話題提供② コンクリートの担うべき低炭素社会での役割 (仮)

話題提供③ 都市ストックの担うべき低炭素社会での役割 (仮)

話題提供④ 「社会資本のライフサイクルをとおした環境評価技術の開発」について (仮)

パネルディスカッション

コーディネータ 藤田 壮 (環境システム委員会環境評価小委員会小委員長、国立環境研)

第 18 回地球環境シンポジウムに向けて

第 18 回地球環境シンポジウム 実行委員会 委員長

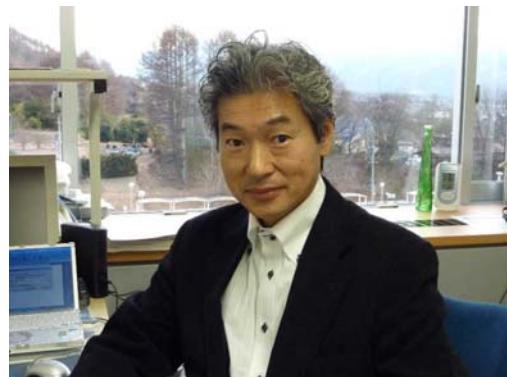
奈良 松範(諏訪東京理科大学)

今回の地球環境シンポジウムは長野県茅野市で開催されます。開催地周辺は森林が多く残されており、関東近県の観光・リゾート地になっています。地球環境問題を考えた場合、森林はその解決策を考える上で重要なキーワードになっています。地球上にある陸地の約 3 割が森林とされ、そこは水を貯め込む“自然のダム”ともいわれており、水資源を涵養します。森林には地球上の生物種 5~8 割が生息しており、生態系を維持するための根幹を形成しています。また、森林には病気に有効な薬剤を作るための微生物や菌類などが存在し、未発見の製剤適合生物（微生物、菌類）を含め遺伝子資源の宝庫ということもできます。さらに、植物は光合成により生態系の食物連鎖の原点にもなっており、森林の破壊や消失は食糧問題にも関連してきます。特に、地球環境問題解決における森林の重要な役割は、排出総量が最大の温暖化効果ガスである二酸化炭素の吸収源となっていることです。

他方、そんな森林が人間の手によって失われつつあります。熱帯林では、毎年 1,420 万ヘクタールもの天然林が減少しており、この面積は日本（本州）の約 2/3 ほどに相当し、また 10 秒ごとに東京ドーム 1 個分の森林がなくなる計算となります。現状のままいけば、100 年後には地球上から森林（熱帯林）がなくなるといわれています。森林が消滅するということは、今まで森林（植物）が行ってきた働きすべてが止まるということです。水を蓄えられなくなると洪水やがけ崩れなどの災害が起こり、二酸化炭素が増えることで地球温暖化にも拍車がかかることは容易に予想されます。さらに、森林が減少すると気温が上昇し、最終的には砂漠化、そして食糧危機が進行することが指摘されています。

また、身近な都市環境について考えてみれば、森林（植物）の減少によって、さまざまな環境問題が引き起こされています。その 1 つとして、ヒートアイランド現象があげられます。これは都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象で、100 年以上も前から報告されています。この現象の進行は、熱中症の増加にも寄与しているとされています。

今回のシンポジウムでは、このような地球環境問題と密接な関係を持つ森林とその役割を身近に体感していただきたいと思っています。





<http://www.tateshinakougen.gr.jp/>

つぎに、開催地周辺のご案内をしてみたいと思います。わが国の平均森林率は6.7%です。世界の国の中でも森林率の高いことで知られているフィンランドやスウェーデンと同等の値となっており、世界でトップクラスの森林国です。日本の中でも長野県は森林が多く残されており、その森林率は7.8%と都道府県別の第3位です。そして、茅野市はその市域の約80%が森林で構成されています。現在、茅野市では蓼科高原や車山高原などでこの豊富な森林環境を活用したツーリズムが実施されています。アンチエイジング・トレッキング、脳トレツアーソしてエコツーリズムなどは、その代表的な事例になっています。

また、蓼科周辺は古くから避暑地やスキーリゾートとして知られており、今回のシンポジウムでは会場から少し離れば、避暑地としての環境を体感できると思います。ちなみに、夏季の気温について調べた結果は以下のとおりです。東京と蓼科高原では、8月の平均気温で4.3℃の違いがあります。

2009年8月	日平均気温℃	日最高気温℃	日最適気温℃	降雨量(mm)
東京	26.6	30.1	23.8	242
蓼科高原	22.3	28.5	18.0	123

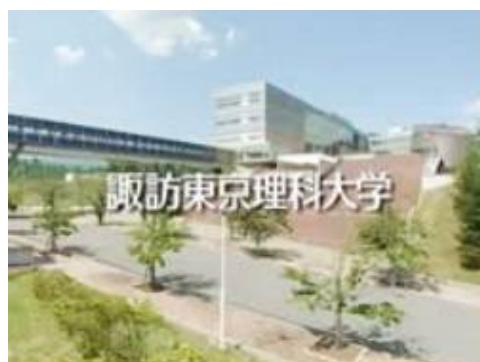
外国の避暑地と比較すると、世界一の一枚岩であり、パワースポットとしても有名なエーズロック。こここの夏季の平均気温は22℃で、蓼科高原とほぼ同じ値です。また、世界遺産のグレートバリアリーフの基地となるケアンズでは、8月の最高気温が27℃となっており、蓼科高原の最高気温に近いと思われます。特に、高原は直射日光が当たらない日陰では、体感温度の低い風が吹くため、気温が29℃近くても高温という感覚はありません。

本シンポジウムは残暑の
厳しい時期に開催されます
ので、避暑地の良さを確かめ
てください。

また、山歩きやトレッキングを希望する方のためにも自然資源が準備されており、今年から八ヶ岳山麓スパートレイルが開設されました。八ヶ岳山麓スパートレイルとは、日本列島のほぼ中央部に位置する八ヶ岳連峰の山麓を周回する約 200km に及ぶ『歩く旅の道』が、八ヶ岳山麓スパートレイル県にまたがる 12 市町村を経 よそ 1,500m ラインの登山道、林道、歴史街道、国・県道、な 八ヶ岳山麓の豊かな自然と歴 ただけるように設定していま な岩山を望み、北八ヶ岳のな 湿原を巡ります。トレイルで 会うなど、四季を通じて楽し ルは、八ヶ岳山麓スパート 未来に続く『歩く旅の道』と 作されました（詳細はホーム す <http://www.ystrail.jp/>）。



以上、簡単ですが、シンポジウム開催のご案内と開催地の紹介をさせていただきました。
シンポジウムでお会いできることを楽しみしております。



第18回地球環境シンポジウムのご案内(概要、会場、交通、宿泊)

第18回地球環境シンポジウム 実行委員会 幹事長

大西 文秀(地球環境委員会、竹中工務店)

第18回地球環境シンポジウム（奈良松範実行委員会委員長）は、8月27日（金）、28日（土）に諏訪東京理科大学を会場にして開催いたします。本年の地球環境シンポジウムは、恒例の口頭発表やポスター発表、パネル展示（査読付論文19件、講演論文29件、パネル展示5題以上を予定）をはじめ、企画セッションでは、「行政の側から見た環境負荷低減方策とその行方」や「グリーン購入、エコマテリアルの課題と展望」をテーマに開催いたします。また28日（土）の午後には「自然を活用した地域経済の活性化」や「自然と環境」をテーマにした「地球環境フォーラム」（一般公開、参加無料）を開催いたします。たくさんのご参加をお待ちしております。

下記に会場、交通、宿泊のご案内をいたします。

第18回地球環境シンポジウム

■日 時 2010年8月27日（金）～28日（土）

■会 場 諏訪東京理科大学 4号館、6号館 〒391-0292 長野県茅野市豊平 5000-1

■後 援 「地球環境フォーラム」 茅野市、茅野商工会議所、信濃毎日新聞社、長野日報社
市民新聞グループ（7紙）、エルシーブイ株式会社

※最新情報、詳細は下記、地球環境委員会ホームページのシンポジウム情報をごらんください。
詳細プログラムは7月末までに確定し、ホームページに掲載し、ニュースレター配信アドレス、
および"JSCE-gee"メーリングリストでも配信いたします。

地球環境委員会ホームページ：<http://www.jsce.or.jp/committee/global/index.htm>

●諏訪東京理科大学キャンパスマップ



1号館：教室／電子システム工学科実験室／コンピュータ教室 2号館：経営情報学部研究室／事務室

3号館：学生食堂／売店／学生ホール

4号館：教室／共通教育センター研究室／学生ホール

5号館：図書館／生涯学習センター／茅野市情報プラザ

6号館：特大教室／事務室／進路資料室

7号館：システム工学部研究室／オープンラボ 8号館：システム工学部研究室／機械システム工学科実験室

■周辺案内

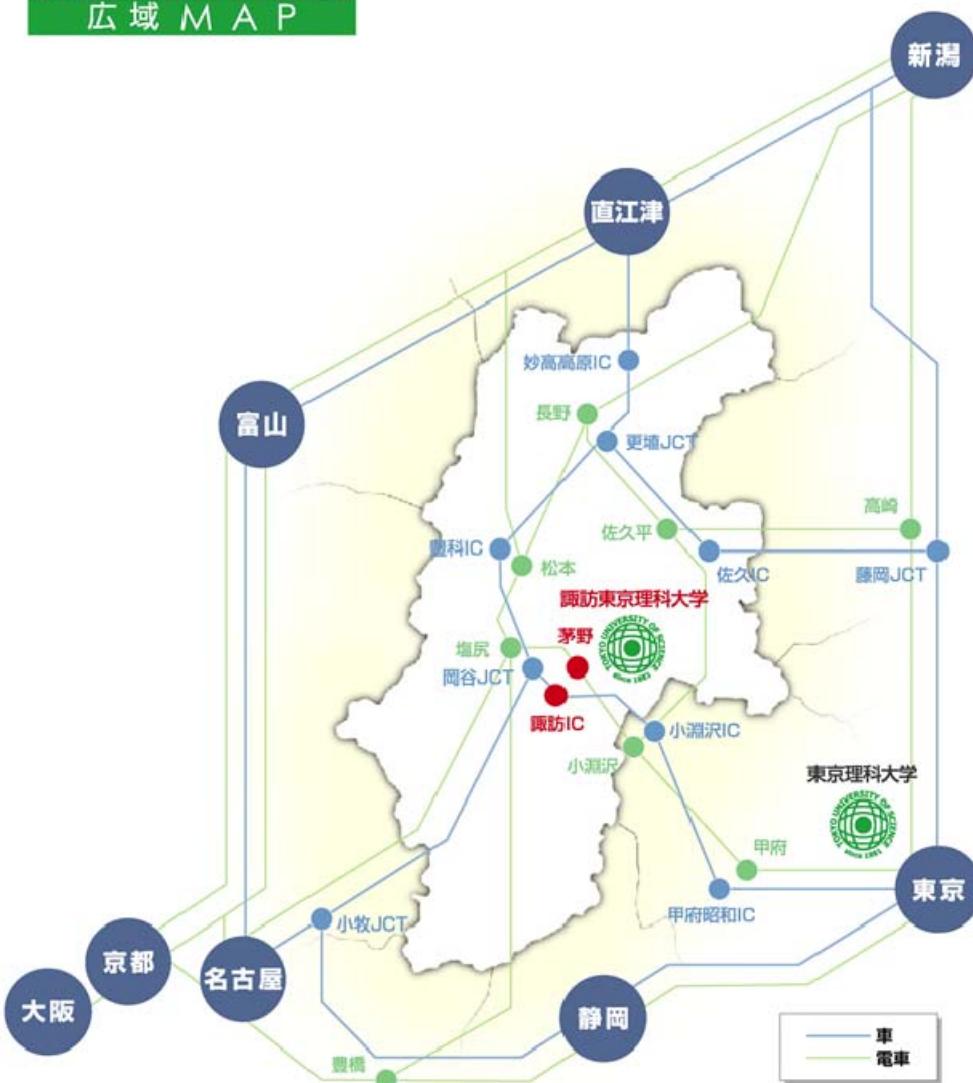


■ JR茅野駅より諏訪東京理科大学へのアクセス

- JR茅野駅よりバス 15 分、またはタクシー10 分
バスは茅野駅西口発「理科大行き」または、白樺湖線「福沢入口」下車
詳しくは時刻表（諏訪バス株式会社ウェブサイト）をご覧ください。

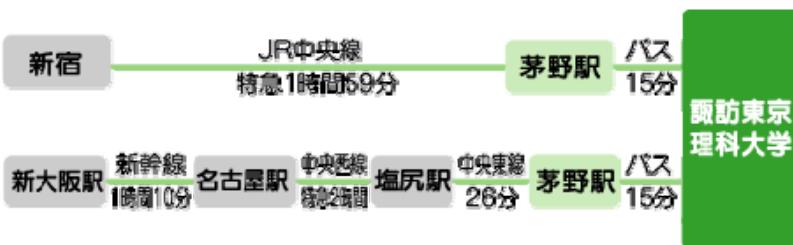
■ 広域案内

諏訪東京理科大学
広域 MAP



■ 交通機関案内

電車利用の場合



車利用の場合



■宿泊施設の案内

■地域協賛宿泊施設

●アートランドホテル蓼科 蓼科湖畔のリゾートホテル

長野県茅野市北山 4035 Tel : 0266-67-2626 Fax : 0266-67-2632

1室2名 1泊2食 @15900円～、1室1名 1泊2食 @21150円～

ホームページ : <http://www.hotelateshina.co.jp/>

●ヒュッテ ジャヴェル 霧ヶ峰高原の山の宿

長野県諏訪市霧ヶ峰沢渡 Tel : 0266-58-5205

1室2名 1泊2食 @8900円～、1室1名 1泊2食 @9500円～

ホームページ : <http://www4.ocn.ne.jp/~javelle/>

■JR茅野駅周辺の宿泊施設

●ちのステーションホテル

茅野駅前 Tel : 72-1245 客室数：58 料金：6000円（S）～

●ちのスカイビューホテル

茅野市塚原 Tel : 71-1010 客室数：68 料金：5100円（S）～

●ホテルちの（ビジネス）

茅野市宮川 Tel : 72-8100 客室数：50 料金：5775円～

●ビジネスホテルさかえや

茅野市仲町 Tel : 72-2816 客室数：22 料金：5500円（S）～

●ホテルわかみず

茅野市仲町 Tel : 72-6166 客室数：40 料金：5100円～

●ビジネスホテルノーブル

茅野茅野市ちの Tel : 72-8585 客室数：74 料金：4500円（S）～

●ちの旅館

茅野市仲町 Tel : 72-2216 客室数：22 料金：5500円～

●割烹旅館 三万石

茅野市本町西 Tel : 72-1519 客室数：28 料金：4200円～

●清水川旅館

茅野市本町西 Tel : 72-2518 客室数：13 料金：5500円～

(S) : シングル

■学生参加者への宿泊施設の案内

●諏訪東京理科大学セミナーハウス宿泊施設

・宿泊料金：1500円（1名1泊・食事なし）、施設形態：4名1室、定員：約32名

・宿泊受付：下記の奈良松範先生の個人アドレスまで、メールで申し込んでください。

宿泊の可否は返信メールでご連絡いたします。

E-Mail アドレス : matnara@mail.goo.ne.jp

・学内の位置は、8ページのキャンパスマップをごらんください。

※詳細は下記、地球環境委員会ホームページのシンポジウム情報をごらんください。

地球環境委員会ホームページ : <http://www.jsce.or.jp/committee/global/index.htm>

第18回地球環境シンポジウム実行委員会の構成および協賛・後援組織

第18回地球環境シンポジウム、および、地球環境フォーラムは、奈良松範実行委員会委員長のもと、下記実行委員会により運営されています。

■第18回地球環境シンポジウム実行委員会の構成

(50音順)

委員名	氏名	所属	委員名	氏名	所属
顧問	片岡 寛	謫居東京理科大学	実行委員	白川 元	茅野商工会議所
実行委員長	奈良 松範	謫居東京理科大学	実行委員	杉谷 博	(社)日本鋼需協会
実行委員	青木 正和	謫居東京理科大学	実行委員	谷 辰夫	謫居東京理科大学
実行委員	天野 輝芳	謫居東京理科大学	実行委員	西山 勝廣	謫居東京理科大学
実行委員	飯森 正敏	長野県	実行委員	古館 信生	謫居東京理科大学
実行委員	今井 敏夫	(財)長野県テクノ財団	実行委員	望月 武	新日本製鐵(株)
実行委員	川人 健二	新日本製鐵(株)	実行委員	横道 正和	長野県工業技術総合センター
実行委員	河村 洋	謫居東京理科大学	実行委員	吉田 一真	トピー工業(株)
実行委員	小平 雅文	茅野市	幹事長	大西 文秀	(株)竹中工務店
実行委員	小林 充	信州大学	幹事	板橋 正章	謫居東京理科大学
実行委員	小林 康成	長野県	幹事	内海 重宣	謫居東京理科大学
実行委員	坂本 清隆	(財)日本環境協会	幹事	小池 勝則	鹿島建設(株)
実行委員	篠原 嘉一	(独)物質・材料研究機構	幹事	宮本 善和	中央開発(株)

■第18回地球環境シンポジウム 業界・教育研究機関案内 協賛組織 (7月中旬時点申込み順)

組織名	組織名	組織名
鹿島建設(株)	蓼科高原集客拡大会議	茅野市観光連盟
(株)セレス	(株)エックス都陸研究所	松木寒天産業(株)
(株)建設技術研究所	中央開発(株)	パシフィックコンサルタンツ(株)
宮坂ゴム(株)	(財)沖縄県環境科学センター	新日本製鐵(株)
(財)電力中央研究所	アートラントホテル蓼科	京都大学
大成建設(株)	いであ(株)	(株)ユードム
野村ユニソン(株)	住友ゴム工業(株)	ヒュッテ・ジャヴェル
茅野商工会議所	芝浦工業大学	

開催地の組織をはじめとして多くの申込みをいただきました。

■地球環境フォーラムの後援組織

茅野市、茅野商工会議所、信濃毎日新聞社、長野日報社
市民新聞グループ（7紙）、エルシーブイ株式会社

皆さまのご支援、感謝申しあげます。

第18回地球環境シンポジウム実行委員会

第 17 回地球環境シンポジウムの記録写真

沖縄大学、2009 年 9 月 11 日～12 日



・沖縄大学



・開会式 桜井国俊実行委員長（沖縄大学学長）



・研究発表



・ポスター発表、パネル展示



・懇親会





・一般公開セッション、シンポジウム



・表彰式



・閉会挨拶 太田幸雄委員長（北海道大学）

第17回地球環境シンポジウムは、2009年9月11日～12日に沖縄大学を会場に開催されました。たくさんのご支援とご参加ありがとうございました。桜井国俊実行委員会委員長、宮本善和実行委員会幹事長をはじめ、第17回地球環境シンポジウム実行委員会の皆さんお疲れ様でした。

地球環境委員会 平成 22 年度 委員会・幹事会の構成

■委員長・幹事長

委員名	氏名	所属
委員長	太田 幸雄	北海道大学
幹事長	村尾 直人	北海道大学

■顧問

委員名	氏名	所属
顧問	青山 俊介	(株)エックス都市研究所
顧問	北田 敏廣	豊橋技術科学大学
顧問	松岡 譲	京都大学

■委員メンバー

委員名	氏名	所属
特別委員	溝 宏樹	国土交通省 大臣官房 技術調査課
特別委員	室石 泰弘	環境省 大臣官房 地球環境局
特別委員	沼田 博男	経済産業省 原子力安全保安院
委 員	市川 陽一	龍谷大学
委 員	大西 文秀	(株)竹中工務店
委 員	大野 文良	清水建設(株)
委 員	桑原 祐史	茨城大学
委 員	小池 勝則	鹿島建設(株)
委 員	那須 清吾	高知工科大学
委 員	奈良 松範	誠方東京理科大学
委 員	藤原 靖	大成建設(株)
委 員	松嶋 太	建設技術研究所
委 員	吉津 洋一	関西電力(株)
委 員	山崎 智雄	(株)エックス都市研究所
委 員	山田 和人	パシフィックコンサルタント(株)

■幹事メンバー

(50 音順)

幹事名	氏名	所属
特任幹事	松下 潤	芝浦工業大学
特任幹事	松本 亨	北九州市立大学
特任幹事	宮本 善和	中央開発(株)
幹 事	川原 博満	(株)計量計画研究所
幹 事	荒巻 俊也	東洋大学
幹 事	池野 正明	(財)電力中央研究所
幹 事	伊藤 一教	大成建設(株)
幹 事	倉田 学児	京都大学
幹 事	松村 寛一郎	関西学院大学
幹 事	東海林 孝幸	豊橋技術科学大学
幹 事	藤原 健史	岡山大学
幹 事	古川 恵太	国土技術政策総合研究所
幹 事	真鍋 章良	復建調査設計(株) 5月退任
幹 事	室町 泰徳	東京工業大学
幹 事	山下 隆男	広島大学
幹 事	米田 稔	京都大学

※詳細は下記、地球環境委員会ホームページをごらんください。

http://www.jsce.or.jp/committee/global/gaiyou/iinkai_gaiyou02.htm

■地球環境委員会からのおしらせ

●事務局担当の異動

5 年にわたり地球環境委員会の事務局を担当され、お世話いただきました佐々木淳氏（研究事業課）が企画総務課に移られ、二瓶定洋（にへい さだひろ）氏が新担当として 6 月 1 日に着任されました。今回の異動は地球環境委員会にも関係の深い土木学会論文集の再編に伴う事業部門の改編にも関連し、これまで出版部門にあった土木学会論文集が調査研究部門に移動します。これに伴い事務局の編集課論文集担当が研究事業課に統合されます。後任の二瓶定洋氏は、その論文集担当を兼任することになり担当範囲が 4 委員会+論文集に拡大され、業務量の大幅な増加が予想されます。つきましては、地球環境委員会の皆様にはより一層のご協力をお願い申しあげます。

●ニュースレター編集担当の異動

永く土木学会地球環境委員会の幹事や委員兼幹事を務められ、ニュースレターの編集責任者としてご活躍されました眞鍋章良氏（復建調査設計株式会社）が退任されました。眞鍋章良氏はニュースレター38 号～44 号までの編集も担当され、地球環境委員会の活動に大きく貢献されました。シンポジウム前号となる本号（45 号）については、太田幸雄委員長、村尾直人幹事長の命を受け、第 18 回地球環境シンポジウム実行委員会幹事長の大西文秀が編集を担当することになりました。地球環境委員会の皆様にはより一層のご協力をお願い申しあげます。

●地球環境フォーラムの開催

太田幸雄委員長の巻頭言にありましたように、地球環境シンポジウムの一部として一般公開セッション、一般公開シンポジウムを行ってまいりましたが、CPD（継続教育）プログラムとして多くの皆様に参加・ご活用いただくことを目的として、今回から委員会主催の行事として、地球環境シンポジウムと切り離して開催することといたしました。本年は地球環境フォーラムとして、茅野市、茅野商工会議所、信濃毎日新聞社、長野日報社、市民新聞グループ（7 紙）、エルシーブイ株式会社のご後援をいただき開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

●事前参加申込受付開始（受付期間：7 月 1 日～8 月 13 日）

第 18 回地球環境シンポジウムの事前参加申込受付を開始しております。

本部主催行事の参加申込：<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>

【編集後記】魅力的なニュースレターを編集された眞鍋章良氏からいただいた基本レイアウトを継承し、皆さまのご支援によりシンポ前号となるニュースレター45 号を発行できました。太田幸雄委員長、村尾直人幹事長、奈良松範実行委員長のご寄稿ありがとうございました。佐々木淳様、眞鍋章良様、お疲れ様でした。永らくありがとうございました。

発 行：(社)土木学会 地球環境委員会
〒160-0004
東京都新宿区四谷1丁目
外濠公園内

●地球環境委員会についての問合先

事務局 二瓶貞洋

TEL:03-3355-3559、FAX:03-5379-2769

●ニュースレターについての問合先

第 45 号編集責任者 大西文秀

E-mail : ohnishi.fumihide@takenaka.co.jp